

令和3年12月
福津市まちづくり推進室

令和3年度 地方創生効果検証会議 外部有識者による評価

1. 地方創生効果検証会議について

この会議は、「福津市まち・ひと・しごと創生総合戦略」（以下、「地方版総合戦略」という。）に基づき推進している各施策に対して、確実な遂行を図るため、外部有識者から施策展開、効果検証等の意見聴取を行うものである。

効果検証会議メンバー（以下、「会議メンバー」という。）は、以下4名の外部有識者で構成される。なお、会議メンバーについては、複数年度に渡る地方版総合戦略の取り組みを継続的に検証することが望ましいことから、基本的に前年度を踏襲した委員構成としている。ただし、令和3年度においては、前年度まで会議メンバーとしてご参加いただいていた1名が不参加となったため、4名での構成となった。

■外部有識者・会議メンバー（順不同、敬称略）

所属	役職等	氏名
(株)NCB リサーチ&コンサルティング	執行役員 業務統括部長	芹野 千佳子
西南学院大学	経済学部教授	近藤 春生
いんどり真愛保育園	園長	安德 尊博
(一社)ふくつ観光協会	事務局長	中村 留美

■効果検証会議の概要

開催	時期	概要
第1回	平成28年7月	地方創生先行型交付金事業の検証※
第2回	平成29年8月	地方創生加速化交付金事業、戦略全体の検証
第3回	平成30年6月	地方創生拠点整備交付金事業、地方創生推進交付金事業、戦略全体の検証
第4回	令和元年7月	地方創生拠点整備交付金事業、地方創生推進交付金事業、戦略全体の検証
第5回	令和2年7月	地方創生推進交付金事業、戦略全体の検証
第6回	令和3年7月	地方創生推進交付金事業、戦略全体の検証

※地方創生先行型交付金事業については、地方創生先行型交付金交付要綱第3条3項の規定に基づき、国に外部有識者の評価を踏まえた検証内容を報告する必要がある、また、平成28年度の効果検証会議開催時においては戦略策定から4ヶ月しか経過していないことから、先行型交付金事業に限った検証を行った。

2. 令和2年度地方創生效果検証会議、外部有識者意見のまとめ

取組内容ごとに各担当課が評価シートを作成し、会議メンバーに事前配布した。また、検証会議はオンラインで開催し意見交換を行い、後日、効果検証シートを提出いただいた。（別紙1、2、3参照）

2 - 1. 地方創生推進交付金事業について

① 新たなまちづくり組織の設立

■評価・意見等

KPI達成に対する 取組の有効性		地方創生に対する 取組の効果性		地方創生に対する 取組の継続性		
有効で ある	有効で ない	効果が 高い	効果が 低い	拡大	維持	縮小
4	0	4	0	3	1	0

・コロナ禍で活動を制限される中、通販サイト・EC サイトの活用等の工夫をこらすことにより、地産地消、市外販路拡大等において一定の効果を実現できている。

・効果的な発信を継続して福津産品の魅力・ブランディング向上を図り、コロナ制限後の観光振興につなげていただきたい。

・地域商社が、生産・加工・販売のチェーンに参画することにより、コロナ禍で販路を失った魚介類の買い取り、商品化できない農水産物の仕入れ、消費者へのつなぎなどの支援を行い、生産者の収益性向上に寄与する取り組みができつつある。

・「お魚センターうみがめ」についても、市の「子育て応援券」が呼び水となり、過去最高の売上を記録。あと一步で達成できる黒字化、自立を目指し、集客浸透施策の継続展開が望まれる。

・5 商品の商品化を行った農産物についても、周知・マーケティング策を拡大し、福津産品の魅力・ブランディングの向上を図っていただきたい。

・「福津いいざい」を通じた着実な取り組みは、地方創生もしくは総合戦略の目標達成に重要な役割を果たしうると評価できる。ただし、地方商社である「いいざい」の黒字化の見通しはより持続可能な姿を示す必要があるだろう。「ふるさと納税」を通じた販路の拡大、販売量の増加は良い傾向であるといえるが、「ふるさと納税」だけに依存しない仕組みやそのためのマーケティングが求められる。また、観光の振興とどのようにつながるのだろうか。効果をより高める工夫が求められる。

・市内供給拡大、EC サイトなどの販路開拓、生産者支援や農産物の商品化など様々な取り組みが、確実に実ってきている印象。EC サイトやふるさと納税の返礼品などを通して、福津の特産物に興味を抱いていただけること、また今後も引き続き今行っている事業を継続していきながら、更に福津の魅力が発信されていくことを望む。

・第一次産業の担い手を育成するための仕組みなどがあればいいと思う。観光に連動し、農業体験、漁業体験が出来る機会を設けながら、仕事の理解や面白さにつながれば良い。

・ようやく自走のめどが立ち始めたところかと思われるので、引き続き注力して支援してほしい。また、地産地消が観光と結びつく側面はあるため、市内事業者の営業拡大に特に注力して欲しい。

② 新原・奴山古墳群の活用

■評価・意見等

KPI達成に対する 取組の有効性		地方創生に対する 取組の効果性		地方創生に対する 取組の継続性		
有効で ある	有効で ない	効果が 高い	効果が 低い	拡大	維持	縮小
3	1	2	2	1	2	1

・コロナ禍ではあるものの、継続的な取り組みを行うことにより、一定の認知度向上につながっている。

・「観光ボランティアガイド」は来訪者への古墳群の歴史的価値周知に加え、市内の他の観光地への回遊効果も生んでいる。

・「花いっぱい運動」も美しい自然環境とともにある世界文化遺産としての古墳群の本来の価値の再認識につながった。

・自然と、歴史・文化に触れられる「密」にならない観光資源としてPRを継続いただきたい。

・観光の振興を目的とした、福津市の取り組みとしては一定の効果があると認められる。ただし、その効果がどの程度地域経済にプラスの効果を与えているかは引き続き、詳細なデータを収集するなどして継続的な検証が必要である。R2年度は新型コロナウイルス感染症の影響があり、利用者数が減少しても仕方ない面がある。ただし、アフターコロナを見据えて、新型コロナウイルス感染症流行前に戻ることを想定するだけでなく、インターネットコンテンツを活用するなど、新しい時代にふさわしい観光振興のあり方も探ることが必要と思われる。

・令和3年度は、新型コロナウイルス感染症の影響があるにもかかわらず、様々な取り組みをしており評価できる。「ふくつの古墳まつり」や「花いっぱい事業」などの企画を通して、盛り上げていってくれる方々の存在は貴重であり、その方々から、色々なアイデアを集めるために、「世界遺産を活かした取り組みを考えよう企画！」などを開催するのも面白いと思われる。

・世界遺産、古墳は観光素材として大変難しい。「古墳」はやはり文化財としての価値を確実に高める教育としての側面のほうが大事かと思う。「古墳まつり」では、本来の価値が上がっていない。

・観光の方面ではお花事業で良いのではないかと考える。

・観光ガイドの案内は、コロナの観点からも看板案内などの非接触で良い。

8000 人という来訪者の内訳は学校や自治体の関連であると思われるため、都度ごとに学芸員による案内のほうがふさわしい。

③ 観光消費額単価の上昇

■評価・意見等

KPI達成に対する 取組の有効性		地方創生に対する 取組の効果性		地方創生に対する 取組の継続性		
有効で ある	有効で ない	効果が 高い	効果が 低い	拡大	維持	縮小
3	1	2	2	2	2	0

・コロナ禍ではあったものの、オンラインバスツアーや SNS の活用等、工夫をこらした PR を行っている。

・コロナ収束後に「選ばれる」観光地として効果的な発信を継続いただきたい。

・観光の振興を目的とした、福津市の取り組みとして一定の成果が上がっていると認められる。ただし、KPI の指標が示されていないことや個別の取り組みがどのように観光消費額単価を上げるのかその経路がややはっきりしない。

・観光消費額単価については、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、厳しい現状とを感じる。アフターコロナを見据え、様々な事業を考えているので、今、福津の魅力や良さを発信していきながら、機会が来たら国内外から観光に訪れてきてくれることを望む。

・観光 PR について一定の成果が上がっているが、反面、駐車場整備など受け入れ整備ができていないところが多い。駐車場の有料化をまずは全市の観光地で検討いただきたい。受益者負担の考え方は観光客直接だけでなく、事業者にもあるべきなので、釣り客、飲食客等のマナーや、ビーチでの BBQ、花火等全てのことにまずはきちんとお金を払ってもらい、環境を整えたり、ゴミを片づけたりの事業費が必要。

2 - 2. 福津市まち・ひと・しごと創生総合戦略全体に対する評価

「基本目標Ⅰ：地域資源を生かした魅力あるしごとづくり」

■評価・意見等

番号	取組内容	KPI達成に対する 取組の有効性		地方創生に対する 取組の効果性		地方創生に対する 取組の継続性		
		有効で ある	有効で ない	効果が 高い	効果が 低い	拡大	維持	縮小
1	新たなまちづくり組織の設立	4	0	4	0	3	1	0
2	福津製品の販路開拓	4	0	4	0	4	0	0
3	地産地消の推進	4	0	3	1	2	2	0
4	空店舗等の活用	4	0	3	1	2	2	0
5	創業支援体制の充実	4	0	3	1	3	1	0
6	企業相談窓口の充実	4	0	4	0	2	2	0
7	企業誘致	4	0	3	1	3	1	0
8	就労支援	4	0	4	0	2	2	0

・コロナ禍ではあるものの、産業の振興、雇用創出への取り組みは一定程度継続されている。

■ 2 福津製品の販路開拓

- ・福津製品の販路拡大など一定の成果を上げている施策もあるが、やや低調になっている取り組みも見受けられる。商工業の振興や雇用の創出に関わる取り組みは重要なものが多いが、継続して取り組むことが重要である。

■ 3 地産地消の推進

- ・ニーズに供給が追いついていないという説明があった。いくら販路を拡大しても、担い手がいなければその産業は消滅する。供給サイドを強化する取り組みも必要ではないか。「地産地消」は経済学的にはあまり意味のない政策であることも付け加えておきたい。本当によい農産物が生産できるのであれば、域内でなく域外にも販売できるだろうし、それを縛るべきでない。一方で、地域で生産されたものを消費することも地域の住民が選択した結果であればよいが、他の地域で生産されたものの質がよければ、それを選択することを妨げるべきではない。
- ・子育て世代とのつながりを意識し、親子で農業収穫体験や菜園づくり、親子で魚のつかみ取り大会や地引網体験など、面白い体験と一次産業をつないでいながら、仕事の魅力発信や命の尊さを感じる仕掛けをすることで、市民に対しても様々な情報を提供することができるのではないかと思う。特に福津市は、新しい方々が増えているため。

- ・将来にわたって、地産地消を継続していくためには、後継者づくりを意識した取り組みを実施していくことが大切だと思う。
- ・「子ども達と共に創造するまち」企画として、収穫した農作物や魚介類等で、料理の創作や商品開発が叶えば、レシピ本発行や飲食店でのメニュー化を実現し、福津市は子ども達が活躍するまちになると思う。

■ 5 創業支援体制の充実

- ・コロナ禍の状況下で、創業ニーズが高いということは、今後も更にニーズが高まるのではないかなと思う。そのため、支援体制や相談窓口などありがたい仕組みだと思う。

■ 7 企業誘致

- ・コロナ禍で増加しているサテライトオフィスやテレワーク設備等を、市所有建物に限らず空店舗活用なども視野に入れて検討するなど、コロナ禍にも対応した企業誘致策に取り組んでいただきたい。
- ・効果として地域雇用が生まれるとあるが、実際に福津市民がどれくらいそこで働きどの程度の所得になったのかが大事かなと思われる。今までの市内の別のところで働いていた人が転職したり市外の人が働きにきたりという現状ではないかと懸念する。実際福津市内の飲食店は常にスタッフ募集しているのでそのマッチングがうまくいっているのか不安。

基本目標Ⅱ：地域の活力と賑わいのあるまちづくり

■ 評価・意見等

番号	取組内容	KPI達成に対する 取組の有効性		地方創生に対する 取組の効果性		地方創生に対する 取組の継続性		
		有効である	有効でない	効果が 高い	効果が 低い	拡大	維持	縮小
9	新たなまちづくり組織の設立	4	0	4	0	3	1	0
10	「食の街道」事業の推進	4	0	4	0	2	2	0
11	着地型観光商品の開発	4	0	4	0	1	3	0
12	新原・奴山古墳群の活用	3	1	2	2	1	2	1
13	津屋崎千軒の観光活性化	4	0	3	1	1	3	0
14	観光消費額単価の上昇	3	1	2	2	2	2	0
15	公共バス路線の再編	4	0	3	1	1	3	0
16	電力循環の効率化	2	1	1	2	0	0	3

- ・コロナ禍ではあるものの、オンライン、SNS 等を活用した地域観光資源の魅力発信は継続していきたい。

- ・観光の振興に関わる各施策は KPI 達成に向けて一定の効果があるものと判断するが、コロナ禍においては、具体的な取り組みが取りづらい面があることは理解できる。
- ・福津市には、魅力的な海、海岸線、おしゃれなカフェなどが立ち並び、人気スポットになっていると感じる。

■ 10 「食の街道」事業の推進

- ・コロナ禍での実施は難しいが、アフターコロナの反転攻勢で一気にやるべき。

■ 11 着地型観光商品の開発

- ・今後観光を推進する場合、非常に重要なコンテンツとなる。

■ 13 津屋崎千軒の観光活性化

- ・「詳細な調査」の結果を公表し、コスト・効果に見合った、実現かつ持続可能な最適解を導き出していきたい。
- ・現状を踏まえつつ開発を進めていくべき。

■ 15 公共バス路線の再編

- ・路線を固定化せず、状況の変化に応じて常に利用者目線に立った見直しを実施していただきたい。
- ・公共バス路線の再編は不断に見直していく必要があるだろう。R2 年度の利用者減は概ねコロナの影響とみてよいだろう。
- ・公共バスの利用は、免許返上などにより交通手段を持たない方も増えてくると思うので、地域のニーズに合わせルートを設定していくことで、利用しやすくなると思う。
- ・めざすべきコンパクトシティ像から考える公共交通には限界があるはずなので、みんなを拾って「平等に不便」な路線を作るのはもうやめてほしい。

基本目標Ⅲ：安心して出産・子育てができるまちづくり

■ 評価・意見等

番号	取組内容	KPI達成に対する 取組の有効性		地方創生に対する 取組の効果性		地方創生に対する 取組の継続性		
		有効である	有効でない	効果が 高い	効果が 低い	拡大	維持	縮小
17	保育料の軽減	4	0	3	1	1	2	1
18	保育所における防災対策の実施	4	0	4	0	1	3	0
19	妊娠・出産・子育ての切れ目ない支援	4	0	4	0	3	1	0
20	子育て支援情報の発信	4	0	4	0	2	2	0
21	病児保育の充実	4	0	4	0	1	3	0
22	子育てしやすい地域づくりの推進	4	0	4	0	2	2	0

・妊娠、出産、子育てしやすい福津市の実現、定着のため、今後もコロナ禍に合った支援を継続いただきたい。

・子育て世代が安心して生活できる取り組みとして、特に19から21までの施策は非常に重要であるとする。ただし、常時実施すべき18や具体的な施策が見えない22については評価が難しい。

・子育て世代が増えている福津市において、子育て施策はとても重要である。

その中で、保育料の軽減はもちろん、子育てに悩む家庭にとっては、子育て世代包括支援センターの存在もとても大きな役割をになっていると思う。

・今後に向けて、福津市は、「子育てしやすいまち」「住みやすいまち」として、人口が増えてきているからこそ、今後、更に子育て支援策の充実が、福津市の将来をつくっていく地方創生・継続のキーポイントといえる。ここで育った子ども達がいずれ親になった時に、福津市で子育てしたいと思ってもらうことは福津市の元気につながると思う。今の取り組みが約20年先の未来を創ると思う。

・各家庭に対してのサポートはもちろんありがたいが、一方で、保育園や幼稚園などの乳幼児施設も、子育て、子育てを支える上で大きな役割を担っている。乳幼児施設では、子どもの心と体の育ちはもちろん、保護者の子育てサポートや相談などの実施、また虐待予防・防止対策、保育の質の向上など、更に責務は高まっている。

・多岐にわたる業務（子どもの個別対応、子育て相談、関係機関との連携、新型コロナウイルス感染症への対策など）に対応するためには、人員配置基準を、更に上回る配置することで、更にゆとりが生まれ、手厚い子育て支援につながる。乳幼児期は、人づくりとして最も大切な時期であるからこそ、乳幼児施設に対して、職員配置を手厚くできるような取り組みも検討していただきたい。

・住んでいる地域内に、子育て世代が「集い、つながる場づくり」や、「体験（活動・食体験等）できる場づくり」、また「子ども食堂」的な取り組みも今後、更に必要性を増してくると思うし、その事業を担っていく人づくりも大切だと思う。